

平成 29 年 1 月 31 日

静岡経済研究所

NEWS RELEASE

一般財団法人静岡経済研究所
理事長 鈴木一雄
静岡市葵区追手町 1-13
TEL 054-250-8750
FAX 054-250-8770

静岡県内主要産業の四半期見通し調査（平成 29 年 1 ～ 3 月期）

円安で輸出に明るさがみられるも、先行きは不透明感強まる

『やや上昇』が2業種、『横ばい』が18業種の見通し

昨年11月の米国大統領選挙におけるトランプ氏の当選が円安をもたらし、静岡県内の輸出型製造業の収益環境はやや改善した。今後の見通しについては、大河ドラマ効果による観光客増加と円安による輸出企業の業績向上に期待がかかるも、総じて県内産業景気は先行き不透明感が強く、引き続き横ばいの状態が続きそう。

なお、業種ごとの1～3月期の業界景気見通しは、「自動車部品」と「観光・レジャー」を除く主要18業種で『横ばい』。

『好調』はなく、『順調』が2業種、『普通』が6業種、『低調』が11業種、『不調』が1業種の見通し。

調査項目 業種	業界景気	
	現況 (10～12月)	見通し (1～3月)
製茶	● → ●	● → ●
食品・飲料	● → ●	● → ●
家庭紙	● → ●	● → ●
産業用紙	● → ●	● → ●
工作機械	● → ●	● → ●
民生用電器部品	● → ●	● → ●
自動車部品	● → ●	● → ●
二輪車部品	● → ●	● → ●
建設	● → ●	● → ●
住宅	● → ●	● → ●
大型小売店	● → ●	● → ●
食品スーパー	● → ●	● → ●
自動車販売	● → ●	● → ●
家電量販店	● → ●	● → ●
運輸・倉庫	● → ●	● → ●
情報サービス	○ → ○	○ → ○
外食	● → ●	● → ●
観光・レジャー	● → ●	● → ●
リース	● → ●	● → ●
人材派遣	○ → ○	○ → ○

担当： 研究員 岩間 晴美
主席研究員 望月 毅

円安で輸出に明るさがみられるも、先行きは不透明感強まる

昨年11月の米国大統領選挙におけるトランプ氏の当選が円安をもたらし、静岡県内の輸出型製造業の収益環境はやや改善した。一方、個人消費は、消費者の節約志向が依然として強く、大型小売店等では衣料品の販売が低調で、持家の新設着工戸数は前年並みで推移するなど回復状況にはなく、横ばいが続いた。

今後の見通しについては、大河ドラマ効果による観光客増加と円安による輸出企業の業績向上に期待がかかる。ただし、トランプ新政権が打ち出している保護主義的な経済政策が打ち出された場合には、景気の腰折れも懸念される。総じて県内産業景気は先行き不透明感が強く、引き続き横ばいの状態が続くそう。

(1) 業界景気の現況について

県内産業（主要20業種）の現況（平成28年10～12月期）は、『好調』業種はなく、『順調』が「情報サービス」、「人材派遣」の2業種、『普通』が「家庭紙」「工作機械」「民生用電器部品」「建設」「外食」「観光・レジャー」の6業種、『低調』が「食品・飲料」「自動車部品」「住宅」など11業種、『不調』が「二輪車部品」1業種となった。

前回調査との比較では、『順調』が1業種減少、『普通』が1業種増加した。

(2) 業界景気の見通しについて

平成29年1～3月期の景気見通しは、『やや上昇』が2業種、『横ばい』が18業種の見通しとなった。大河ドラマ「おんな城主 直虎」の放映開始や「駿河東海道おんぱく」などのイベントにより観光客の増加が見込まれる「観光・レジャー」が『普通』から『順調』に、登録車の販売が好調を維持し輸出も堅調な動きが期待される「自動車部品」が『低調』から『普通』に上昇する。

『横ばい』18業種のうち『順調』が続くと見られるのが、首都圏から多くの案件が見込まれる「情報サービス」と、人手不足下で人材需要の多い「人材派遣」の2業種。

『普通』のまま『横ばい』と予想されるのは、生産量は堅調ながら競争激化が予想される「家庭紙」、円安基調で外需の回復が見込まれる「工作機械」、国内が回復しつつある上に円安の追い風を受ける「民生用電器部品」、公共工事の年間契約額が前年並みにとどまる「建設」、観光客のランチ需要の取り込みを図る「外食」の5業種。

一方、『低調』のまま『横ばい』が続くのは、暖冬予報で需要への影響が懸念される「製茶」、スーパー向けの食品が低調な「食品・飲料」、原油価格の上昇や原料古紙の不足によりコスト上昇が懸念される「産業用紙」、前年の駆け込み需要の反動減が予想される「住宅」、衣料品が振るわない「大型小売店」、消費者の節約志向が強まる「食品スーパー」、軽自動車は底入れしたものの大きな伸びは見込めない「自動車販売」、生活家電は底堅いものの情報家電需要の盛り上がり欠ける「家電量販店」、ウエートの高い輸送用機器で低迷が予想される「運輸・倉庫」、中小企業を中心に設備投資マインドが低調な「リース」の10業種。

『不調』のまま『横ばい』を見込むのは、東南アジア向けの低迷が予想される「二輪車部品」。

静岡県内産業の四半期ごとの業界景気の『現況』と『見通し』推移

年 次		平成26年				平成27年				平成28年			
四 半 期		I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV (今回調査)
対象月(○は調査月)		1～③	4～⑥	7～⑨	10～⑫	1～③	4～⑥	7～⑨	10～⑫	1～③	4～⑥	7～⑨	10～⑫
業界景気の『現況』	(業 種 数)	好調 ☀	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0
		順調 ○	5	1	1	2	1	2	3	2	2	2	2
		普通 ☪	7	5	5	4	4	3	5	7	7	7	6
		低調 ☁	6	13	13	13	13	13	11	10	10	10	11
		不調 ☂	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	全業種の平均階級値		2.95	2.30	2.30	2.35	2.40	2.45	2.50	2.50	2.50	2.50	2.45
	好調：5												
	順調：4												
	普通：3												
	低調：2												
	不調：1												
業界景気の『見通し』	(業 種 数)	上 昇 ↗	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		やや上昇 ↗	0	1	2	0	2	2	0	0	1	0	2
		横 ば い →	12	19	18	20	18	18	20	20	19	19	20
		やや下降 ↘	4	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
		下 降 ↘	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

注1) 「業界景気の現況」および「業界景気の見通し」は、対象企業経営者が業界景気動向をどうみているかを調査したもの。調査は、毎年3、6、9、12月に実施。「業界景気の現況」とは、調査時点(12月調査であれば10～12月期)における業況、「業界景気の見通し」とは、調査時点における翌期(12月調査であれば1～3月期)の見通しを示す。

注2) 調査方法は、アンケート調査とヒアリング調査による。アンケート調査の概要は、以下の通り。

調査時点…平成28年12月上旬

回答企業…県内主要20業種(246社)

注3) 平均階級値は、好調：5、順調：4、普通：3、低調：2、不調：1とする、20業種の平均値。

平成 29 年 1 ～ 3 月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査一覧表

調査項目 業種	業界景気		静岡県内主要産業の見通し									
	現況 (10～12月)	見通し (1～3月)	生産量 (前対比10～12月期率)	売上高 (前対比10～12月期率)	生産量 (前伸年同比率)	売上高 (前伸年同比率)	操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格の動向 (前10～12月期対比)	製品価格の動向 (前10～12月期対比)	受注残 (ヵ月)
製茶	☁ → ☁	☁	—	—	—	→	○	均衡	適正	→	→	—
食品・飲料	☁ → ☁	☁	→	→	↗	↗	○	需要超過	適正	↗	→	0.5～1.0
家庭紙	☉ → ☉	☉	→	→	→	→	○	均衡	適正	→	→	0.1～1.0
産業用紙	☁ → ☁	☁	→	→	→	→	○	均衡	適正	→	→	0.1～1.0
工作機械	☉ → ☉	☉	→	→	→	→	○	均衡	適正	→	→	1.0～5.5
民生用電器部品	☉ → ☉	☉	→	→	→	→	○	供給過剰	適正	→	→	1.0～3.0
自動車部品	☁ ↗ ☉	☉	↗	↗	↗	↗	○	均衡	適正	→	→	0.1～3.0
二輪車部品	☂ → ☂	☂	↗	↗	↗	↗	◇	均衡	適正	→	→	0.5～3.0
建設	☉ → ☉	☉	—	↗	—	↗	○	均衡	適正	→	→	7.0～10.0
住宅	☁ → ☁	☁	—	↗	—	→	○	均衡	適正	→	→	1.0～6.0
大型小売店	☁ → ☁	☁	—	→	—	→	—	供給超過	適正	→	→	—
食品スーパー	☁ → ☁	☁	—	→	—	→	—	供給超過	適正	↗	→	—
自動車販売	☁ → ☁	☁	—	↗	—	↗	—	均衡	適正	→	→	—
家電量販店	☁ → ☁	☁	—	→	—	→	—	供給超過	適正	→	→	—
運輸・倉庫	☁ → ☁	☁	—	→	—	→	○	均衡	—	→	→	—
情報サービス	○ → ○	○	—	↗	—	↗	○	需要超過	—	→	→	—
外食	☉ → ☉	☉	—	→	—	→	—	均衡	—	↗	→	—
観光・レジャー	☉ ↗ ○	○	—	↘	—	↗	—	供給超過	—	→	→	—
リース	☁ → ☁	☁	—	→	—	→	—	—	—	—	—	—
人材派遣	○ → ○	○	—	→	—	↗	○	需要超過	—	→	→	—
＜特別調査 平成29年1～6月期 半期見通し＞												
家具	☁ → ☁	☁	↘	↘	↘	↘	◇	供給超過	過多	↗	→	0.5～1.0
楽器	☁ → ☁	☁	→	→	→	→	○	均衡	適正	→	→	—

表の見方と注意

業界景気 現況 見通し	業界景気 見通し	生産量・売上高の伸び率 原材料・製品価格の動向	操業度	需給バランス	製品在庫水準
好調 ☀	上昇 ↗	非常に増加・上昇 (+10%以上) ↗	100～90% ◎	非常に需要超過	非常に過少
順調 ○	やや上昇 ↗	増加・上昇 (+3～+9%) ↗	89～80% ○	需要超過	過少
普通 ☉	横ばい →	横ばい → (+2～△2%) →	79～70% ◇	均衡	適正
低調 ☁	やや下降 ↘	減少・下降 (△3～△9%) ↘	69～60% ⊙	供給超過	過多
不調 ☂	下降 ↘	非常に減少・下降 (△10%以下) ↘	59%以下 ●	非常に供給超過	非常に過多

(注) 特別調査(家具、楽器)は半期ベース(7～12月期の現状と1～6月期の見通し、前期比・前年比もすべて半期ベース)。
半期調査対象企業…2業種の企業6社。

主要業種の現況と1～3月期の景況見通し

業種	業界天気	静岡茶愛飲条例が施行、県民会議が施策を協議へ
製茶	☁ →	(現況)・製茶問屋の売上高は前年並みとなった模様。贈答需要が盛り上がり、欠いたものの、家庭需要は堅調に推移した。秋冬番茶は前年比減産となるも、ドリンク需要を中心に引き合いが強く、前年より高値で推移した。 (見通し)・製茶問屋の売上高は、前年比微減の見通し。上級茶の需要回復の遅れに加え、やや暖冬の子報で家庭需要への影響が懸念される。なお、昨年12月に小中学校における静岡茶愛飲条例が施行され、具体策の協議は4月の県民会議設置以降となるが、家庭等での関心の高まりが期待される。

業種	業界天気	ツナ缶・コーン缶を中心に生産量は前年をやや上回る
食品・飲料	☁ →	(現況)・県内の食料缶生産量は、前年をわずかに上回った模様。主力のツナ缶は、異物混入問題の影響で前年をやや下回ったが、コーン缶需要が堅調な農畜缶が前年実績を上回った。飲料缶は、暖秋により需要が横ばいで前年並みにとどまった模様。 (見通し)・県内の食料缶生産量は、前年をやや上回る見通し。主力のツナ缶は、節約・内食志向を背景に前年実績をやや上回る見込みで、農畜缶も、コーン缶需要が増加するとみられる。飲料缶は、暖冬が予想されることから茶系飲料を中心に前年水準を下回る見通し。

業種	業界天気	トイレ紙は当面堅調も、競争激化へ
家庭紙	☉ →	(現況)・家庭紙の生産量は、前年並みとなった模様。再生トイレ紙の生産量は前年並みで、在庫水準は前年以上だが、価格は堅調に推移した。ティッシュの生産量も前年並みであったが、中韓などからの輸入増加で、価格はやや軟調で推移した。 (見通し)・家庭紙の生産量は、ほぼ前年並みとなる見通し。再生トイレ紙は前年並みを見込むが、設備投資を行うメーカーが増えており、競争激化が予想される。ティッシュの生産量も前年並みを見込む。価格が低迷する中、円安で輸入品の拡大に歯止めがかかると期待される。

業種	業界天気	段ボール原紙は生産増加も、コスト上昇が懸念材料
産業用紙	☁ →	(現況)・産業用紙の生産量は、前年をやや上回った模様。段ボール原紙は、加工食品やインターネット通販向けの需要が引き続き堅調だが、競争の激化により価格はやや低下した。白板紙の生産量は前年並みとなった。 (見通し)・産業用紙の生産量は、前年をやや上回る見通し。段ボール原紙は、中食市場の拡大により、引き続き食品向けなどが伸びるとみられ、白板紙は、前年並みを見込む。なお、段ボール原紙、白板紙とも、原油価格の上昇や円安、原料古紙の不足により、コストの上昇が懸念される。

○好調 ○順調 ●普通 ☁低調 ☂不調 業界天気は上段が10～12月期、下段が1～3月期

業種	業界天気	好不況の目安となる受注水準は確保できる見通し
工作機械	  	(現 況)・全国および県内の受注額は、前年を▲5%程度下回って推移した模様。外需はメインのアジアが引き続き不振で、前年を▲10%近く下回ったとみられる。また、内需も設備投資に勢いがなく、前年を▲5%程度下回って推移した。 (見通し)・全国および県内の受注額は、ともに前年実績並みか若干下回って推移する見通し。好材料が少ない中、メインの外需は円安の定着、内需は補助金効果に期待。業界の景気判断の目安となる受注水準は確保するとみられるも、先行きに目が離せない状況。

業種	業界天気	エアコンは夏の不振をカバーし、例年並みを確保する見通し
民生用電器部品	  	(現 況)・家庭用エアコンの出荷台数は、秋以降も気温の高い日が続く計画以上の出荷を記録、夏の不振分をカバー。懸念された在庫も適正化され、全体としては前年並みで推移した。冷蔵庫も大型タイプがけん引し、前年実績を上回って推移した。 (見通し)・家庭用エアコンの出荷台数は、消費税率引き上げの駆け込み需要に対応した前年は下回るものの、例年並みは確保できる見通し。業務用エアコンは手堅く推移するとみられる。輸出は円安が追い風に働きそう。冷蔵庫と洗濯機も、人気の高機能製品が下支えして、前年並みは確保しそう。

業種	業界天気	登録車の販売が好調、県内生産量は前年をやや上回る見通し
自動車部品	  	(現 況)・国内の自動車生産台数は、前年を+5%程度上回った模様。国内で登録車の新車が相次いで発売されたほか、輸出も前年水準を維持した。県内部品メーカーの出荷高は、前年並みで推移したとみられる。 (見通し)・国内販売は、登録車の販売が好調を維持し、不調だった軽自動車市場も底を打つとみられ、輸出も堅調な動きが期待される。燃費不正問題や熊本地震の影響から立ち直り、県内部品メーカーの受注量は、登録車を中心に前年をやや上回って推移する見込み。

業種	業界天気	挽回生産に伴い、国内生産は前年を上回る見通し
二輪車部品	  	(現 況)・全国の完成車生産台数は、前年を大きく上回った模様。熊本地震で被災した生産拠点が完全復旧し、国内向けを中心に挽回生産が行われた。県内部品メーカーの生産量は、前年並みで推移したとみられる。 (見通し)・全国の完成車生産台数は、国内向け原付バイクの挽回生産に伴い、全体では前年を上回る見通し。輸出も、東南アジア向けは低迷が予想されるが、北米および欧州向けについては増加が期待される。県内部品メーカーの生産量は、ほぼ前年並みで推移する見通し。

○ 好調 ○ 順調 ● 普通 ☁ 低調 ☂ 不調 業界天気は上段が10～12月期、下段が1～3月期

業種	業界天気	公共は前年の反動減が懸念、民間は大型案件に乏しい
建設	  	(現 況)・県内公共工事契約額は、前年を下回った模様。前年10～12月に契約が集中したことによる反動減が要因。年間契約額では前年を上回ったとみられる。民間は、メーカーの研究棟新設や街区再開発など大型案件が目立ち、前年を上回った模様。 (見通し)・県内公共工事契約額は、前年を下回る見通し。前年は年度末にかけても契約が集中しており、前年比での反動減が想定される。また、28年度上半期は契約額が2千億円超と伸びたが、下半期はその水準に届かない見込み。民間は、大学新校舎など大型案件の着工が進んだ前年には及ばない見通し。

業種	業界天気	先行き不透明感強く、住宅市場は弱含み
住宅	  	(現 況)・県内の持家の新設着工戸数は、前年並みとなった模様。住宅ローン金利は依然として低水準で推移しており、需要を喚起した。貸家も、相続税の節税ニーズは根強く、前年をやや上回ったとみられる。 (見通し)・県内の持家の新設着工戸数は、前年をやや下回る見通し。金利は引き続き低水準での推移が予想されるが、経済情勢など先行き不透明感が消費意欲を妨げ、住宅購入を手控えることも多いとみられる。貸家についても、地主のアパート購入ニーズが鈍くなると想定され、市場は弱含みとなる見通し。

業種	業界天気	株高による宝飾品など高額商品の販売増加に期待
大型小売店	  	(現 況)・県内大型小売店の既存店売上高は、前年をやや下回った模様。百貨店は、化粧品が好調だったが、主力の衣料品が振るわず、前年実績に届かなかった。スーパーは、主力の食料品は底堅かったが、衣料品が低調で前年をやや下回った。 (見通し)・県内大型小売店の既存店売上高は、前年並みで推移する見通し。百貨店は、米国のトランプ大統領就任で進んだ株式相場の上昇を背景に、宝飾品など高額商品の販売増加に期待がかかる。一方、スーパーは、消費者の節約志向の高まりから、前年をやや下回って推移する見込み。

業種	業界天気	節約志向の根強く、客単価の上昇は見込めず前年並み
食品スーパー	  	(現 況)・県内主要食品スーパーの既存店売上高は、前年並みで推移した模様。天候不順によるジャガイモなどの価格高騰やサンマの不漁などにより、農水産品が振わなかった。一方、11月は気温の低い日が続き、鍋物食材や惣菜は売上を伸ばした。 (見通し)・県内主要食品スーパーの既存店売上高は、前年並みで推移する見通し。雇用・所得環境は緩やかな改善傾向にあるものの、社会保障関連の負担増などで消費者の節約志向は根強く、客単価の大幅な上昇は見込み難い。また、円安の進行で仕入コストが高騰しており、収益の圧迫が懸念される。

○ 好調 ○ 順調 ● 普通 ■ 低調 ☁ 不調 業界天気は上段が10～12月期、下段が1～3月期

業種	業界天気	登録車は引き続き小型車が好調、軽自動車は低迷続く
自動車販売	  	(現 況)・県内の乗用車販売台数は、前年を+1%上回った。登録車は、昨年秋から年末にH Vモデルの小型車の投入が相次ぎ、販売台数が伸びた。軽自動車は、市場の停滞感から販社が小型車販売に注力する動きもあり、前年を▲6%下回った。 (見通し)・県内の登録車販売台数は、前年を上回る見通し。前年に受注した新型車の納入が進むとともに、年始から人気車のモデルチェンジもあり、受注も堅調に推移するとみられる。軽自動車は底入れしたものの、燃費や安全性などを売りにする新型小型車との競合が想定され、大きな伸びは見込み難い。

業種	業界天気	4 K テレビの需要拡大で、前年実績を確保する見通し
家電量販店	  	(現 況)・薄型テレビの販売額は、4 K テレビの価格下落に伴って需要が増加し、前年を+10%程度上回ったが、パソコンは振るわなかった。洗濯機や冷蔵庫などの生活家電は高機能製品が伸長し、家電販売額全体では前年をやや上回った模様。 (見通し)・パソコンなど情報家電は盛り上がり欠けるものの薄型テレビの販売額は、引き続き4 K テレビの需要拡大が見込まれ、前年をやや上回る見通し。また、冷蔵庫や洗濯機など生活家電の買い替え需要は底堅く、前年並みで推移する見込み。これに伴い、家電販売額全体では前年水準を確保するとみられる。

業種	業界天気	トラック輸送量は前年並み、倉庫は前年をやや上回る
運輸・倉庫	  	(現 況)・トラック輸送量は、取扱品目によって若干の増減はあったものの、全体では横ばいとなった模様。普通倉庫の入出庫高は、主力の紙・パルプや電気機械の荷動きが鈍く、前年水準をやや下回って推移したとみられる。 (見通し)・トラック輸送量は、食料品や飲料は堅調に推移するとみられるが、ウエートの高い輸送用機器で低迷が予想され、全体では前年並みの水準にとどまる模様。倉庫の入出庫高については、電気機械や食品関連の荷動きが堅調に推移し、前年水準をやや上回るとみられる。

業種	業界天気	ソフト開発が堅調に推移し、前年水準を上回る見通し
情報サービス	  	(現 況)・全国の売上高は、主力のソフト開発が好調に推移し、前年をやや上回った模様。県内も首都圏からの受託案件が堅調に推移したほか、小売業の流通システムや製造業の生産管理システムなどの案件が増加し、前年をやや上回ったとみられる。 (見通し)・全国の売上高は、引き続きソフト開発が堅調に推移し、首都圏を中心に案件の需要が高まると予想されることから、前年をやや上回る見通し。県内も、首都圏から多くの案件を見込んでおり、前年水準を上回る模様。ただし、S E不足で案件があっても受けられないケースが懸念される。

○ 好調 ○ 順調 ● 普通 ☁ 低調 ☂ 不調 業界天気は上段が10～12月期、下段が1～3月期

業種	業界天気	県中西部でランチ需要が伸長
外食	  	(現 況)・主要外食店の売上高は、前年を上回った模様。昨年不振のファストフード店の復活が主因。主要チェーン店の販売促進キャンペーンも寄与しているが、客単価の上昇は一段落しており、基本的には横ばい状態。 (見通し)・主要外食店の売上高は、前年をやや上回る見通し。浜松市北部での「大河ドラマ館」オープンや、静岡市での「駿河東海道おんぱく」の開催などを受け、観光客のランチ需要が拡大する見込み。旅行中の昼食であることから、名物や特産品を活かした高額ランチの注文増加が期待される。

業種	業界天気	「大河ドラマ館」と「おんぱく」がけん引
観光・レジャー	  	(現 況)・県内主要旅館の総売上高は、前年をやや上回った模様。三島スカイウォークの開業効果で微増傾向にはあるものの、集客力のある新施設や新規イベントはほとんどなく、総じては横ばいで推移した。 (見通し)・県内主要旅館の総売上高は、前年をやや上回る見通し。三島スカイウォークの効果は一巡するが、1月には浜松市で「大河ドラマ館」がオープンし、2月には静岡市で「駿河東海道おんぱく」が行われるため、県中西部を中心に観光客が増加する見通し。

業種	業界天気	先行き不透明感の強まりから新規案件の減少傾向続く
リース	  	(現 況)・県内のリース件数・契約高は、前年並みで推移した模様。海外は新興国で持ち直しの動きがみられた。国内は投資マインドが低く、新規案件は減少したものの、主力の情報通信機器や事務用機器が底堅く推移し、前年実績を確保した。 (見通し)・県内のリース件数・契約高は、前年をやや下回る見通し。大企業は更新需要で底堅く推移するとみられるが、中小企業は動きが鈍い見込み。先行き不透明感が強まっており、企業のマインドは低調で新規案件の減少が続くとみられ、前年をやや下回る見通し。

業種	業界天気	派遣人材不足により需要ほどは伸びない状況が続く
人材派遣	  	(現 況)・県内の実働派遣労働者数は、前年を+3～5%程度上回った模様。販売業務や事務系業務、製造業務など多くの分野で需要が旺盛だったが、供給側の人手不足は解消しておらず、それを要因に伸び悩んだとみられる。 (見通し)・県内の実働派遣労働者数は、前年をやや上回って推移する見通し。企業の人手不足感の高まりから、今後も多くの分野で高い需要を見込む。しかし、供給サイドの人材不足はさらに深刻化するとみられ、需給は逼迫した状況が続くことから、前年をやや上回る水準にとどまる見通し。

○ 好調 ○ 順調 ● 普通 ☁ 低調 ☔ 不調 業界天気は上段が10～12月期、下段が1～3月期

業種	業界天気	ネット通販の拡大などで卸・小売向けの売上が減少
家具(半期ベース)	 → 	(現況)・県内の木製家具出荷額は、前年実績を下回った模様。全国の7～12月期新設住宅着工戸数は首都圏を中心に前年比増加が続いたものの、低価格帯の家具に需要が集中し、県内の主力である中・高級家具の引き合い増加にはつながらなかった。 (見通し)・県内の木製家具出荷額は、前年水準を下回る見通し。全国の1～6月期新設住宅着工戸数は横ばいで推移するとみられるが、低価格帯家具の人気の根強いほか、ネット通販の広がりから卸・小売向けの売上が落ち込みそう。また、円安の影響などで外材を中心に原材料価格の上昇が予想され、収益も悪化する見通し。

業種	業界天気	北米の電子楽器など回復し、海外販売は前年比プラスか
楽器(半期ベース)	 → 	(現況)・県内企業の楽器販売額は、前年を下回った模様。国内は、主力のピアノは前年比横ばいとなるも、ギターや電子ギターが前年比+20%程度増え、全体では前年をやや上回った。海外は、円高の影響などで前年を▲10%程度下回った。 (見通し)・国内の楽器販売額は、電子ピアノは微増の見通しだが、ピアノは前年並みで推移して、全体で前年と同水準とみられる。海外は、北米における電子楽器の回復、中国向けピアノの一段の伸長、さらに円安による競争力の高まりにより、前年をやや上回る見通し。

○好調 ○順調 ●普通 ☁低調 ☂不調 業界天気は上段が7～12月期、下段が1～6月期

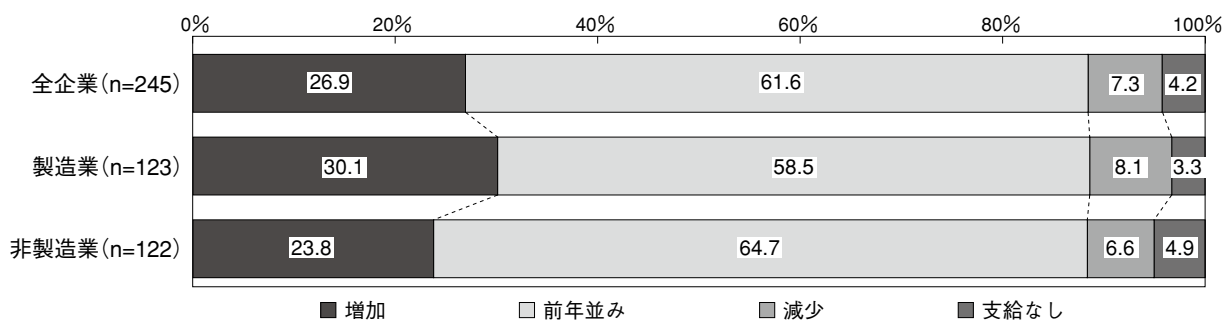
ウォッチング

今冬のボーナス支給額「増加」企業は、前年より1ポイント増加にとどまる

県内企業に、今冬のボーナス支給状況について聞いたところ、前年より「増加」と回答した企業は26.9%と、前年調査（25.9%）を1.0ポイント上回るにとどまった。「減少」も7.3%と前年（6.5%）から0.8ポイント上昇したが、「前年並み」は61.6%と前年調査（61.9%）を0.3ポイント下回った。

業種別にみると、紙・パルプ（41.7%）、運輸・通信業（41.2%）、電気機器（33.3%）で「増加」と回答した企業が30%を超えた。一方、ホテル・旅館（18.2%）、サービス業（18.2%）では2割を下回った。

図表 今冬のボーナス支給状況（正社員1人当たりの支給額）



調査要領：調査時点平成28年12月、調査対象企業数610社、回答社数245社、有効回答率40.2%